

白保小学校創立130周年

迎 里 和 八

随 想

今だから語れる

教室内を走り回り蓄音機に触れレコードに傷をつけ、罰を受けた。今では、歴史をつなぐ三本木として、大切に保護され校庭にあるガジュマル木に縛り上げられたことは、苦しい思い出である。

白保小学校が130

周年とする本年、古希を迎えた、私的な思い出を振り返ってみた。

母親の実家のシークワサー山が盛山にあり、ミカン木の下の実は米盛家が収穫し、上の実は、孫らの出番である。

運動会や遠足などには、ワクワクする気分とのことであるが、私は、ポケットのシークワサーを食することが自慢する事柄であった。

体育系の思い出

白保でも野球と言っ競技は人気がありました。

5、6年生時に兄さんが肥料袋で作ったグロープで野球遊

(2学期)時に白保小学校の卒業証をとお願いし転校。

この年の石垣島祭り(ちびっこ沖縄相撲)で一男が優勝、恩師である仲盛先生より、1、2学期だけで良いから白保にとの連絡である。

何故にあの時に修先生が白保中学校に恩師との巡り合わせに親子共々に大変お世話になりました。

粉ミルクとパン給食

4年生と記憶していますが、粉ミルクの甘さの美味しさ、パンと

の相性と言いますか、学校へ出席すれば食することを覚え勉強が苦にもならず卒業するに至った。

定年退職(帰郷)し10年、東海域に生殖する「二ナフシユ」の名などを議論する最中に大阪在の友より「和

運動会や遠足などには、ワクワクする気分とのことであるが、私は、ポケットのシークワサーを食することが自慢する事柄であった。

卒業式直後に白保中学校の(故)仲盛修先生が我家を訪れ、父親に柔道部に入れて欲しい旨である。今風であればスカウト?

恩師との巡り合わせ

転勤族である私の子